

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870902091		
法人名	医療法人社団董会		
事業所名	甲陽園すみれホーム		
所在地	西宮市神原15-65		
自己評価作成日	令和元年11月4日	評価結果市町村受理日	令和2年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が今まで暮らしてきた生活歴を尊重して、なじみのある環境、生活リズムの整備に取り組んでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスを併設し、散歩・買い物・交通など日常生活に便利な住宅地にある。「その人らしい生活」を理念とし、毎月のフロア会議で職員の「気づきシート」をもとに検討し、個別支援に取り組んでいる。手作りの食事作りを継続し、日常的な外出・季節の外出、デイサービスとの交流等、生活の中で楽しめる機会作りにも努めている。フロア会議での研修とオンライン研修の活用により、研修体制の充実に取り組み、介護計画の策定や記録の整備にも取り組んでいる。「通信」や個別の手紙の郵送、家族会や食事会等、家族との連携にも努めている。協力医療機関との24時間対応の連携により、体調管理・早期対応が行える体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の生活歴を尊重した生活を送るための聞き取りを家族、本人に行い、その内容を会議の際などに伝えていくことで、共有化に努めている。それによって理念の共有化も図っている。	事業所として、「その人らしい生活を」を理念とし、具体的な5項目の基本方針を明示し、その中に地域密着型サービスの内容が含まれている。理念を玄関に掲示して共有を図っている。毎月フロア会議で、職員の「気づきシート」を活用して検討し、利用者が「その人らしい生活を」送れる支援に努め、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの訪問により、交流を図っている。	地域の自治会に加入し、回覧版で情報共有している。近隣に散歩や買い物に出かけたり、地域の夏祭りに参加している。コーラス・演奏・ダンス等地域のボランティアの来訪があり、デイサービス利用者と共に参加し交流している。小学生の町探検の受け入れを行い、地域コア会議に参画し、西宮救命協力施設としてAEDの設置を地域に広報する等、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアとの交流を通じて、地域に認知症の情報を発信している。施設内のAEDは消防署のホームページに登録されていて、西宮救命協力施設にも指定されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との関わり方や行事をどのように行っているのか他施設に聞く機会にしている。	家族代表・民生委員・市職員・知見者等が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では、資料と通信を配布し、利用者・職員の状況、行事・研修等事業所の取り組みの報告を行い、参加者と質疑応答、意見・情報交換を行っている。地域の状況やイベントについての情報や、他事業所の取り組み等、会議での提案・助言等をサービスの向上に活かしている。会議録は、玄関に掲示して公表している。	利用者からの意見の把握、利用者が外部者に意見等を表わす機会づくりのために、(可能な範囲で)利用者にも参加を呼びかけることが望まれます。

甲陽園すみれホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者とのコミュニケーションをとったり。法令上不明確な点があれば法人指導課に確認したり、グループホーム連絡会の活動を通じて市との関係向上を図っている。	運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の取り組みを伝え連携を図っている。市が派遣する介護相談員の受け入れを通して連携している。福祉的支援を要とする利用者には、市のケースワーカーと協働し支援している。管理者が西宮市グループホーム連絡会の会長を務め、市内の事業所間で災害時のネットワークづくりに取り組んでいる。また、法令解釈等の相談があれば、電話や窓口で市の担当者から助言を受けている。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議での講座とオンライン研修により教育を行い、身体拘束のマイナス面の理解を進めている。	契約書に明示して利用者・家族に説明し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化のための指針」を策定している。「身体拘束適正化委員会」を設置し、フロア会議の中で身体拘束が行われていないことを確認し、議事録の回覧により職員の周知を図っている。フロア会議で「身体拘束廃止」について研修を実施し、オンライン研修で学べるシステムもある。エレベーターの使用には操作が必要であるが、外出の希望があれば対応し閉塞感を感じないように努めている。	「身体拘束適正化委員会」で検討した内容を議事録に明示することが望まれます。
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での講座とオンライン研修により教育を行っている。日常業務でもストレスがたまらないよう、残業を減らし、職員体制を整えることで業務の負荷の削減に努めている。	本年度の「虐待防止」研修も、「身体拘束廃止」と同様にフロア会議内の研修とオンライン研修を予定している。利用者との会話は丁寧語を基本とし、気になる対応があれば適宜注意喚起し、不適切な言葉かけや対応の未然防止に取り組んでいる。職員体制の整備、勤務時間・シフトの調整、また、相談しやすい職場環境づくりに努め、職員のストレスや疲労がケアに影響しないよう取り組んでいる。	

甲陽園すみれホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護についての研修を行っている。	本年度の「成年後見制度」についての研修も、上記と同様に、フロア会議内の研修とオンライン研修を予定している。現在成年後見制度を利用している利用者が複数あり、後见人への金銭管理関係書類の提供等、制度利用のための支援を行っている。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり、関係機関と連携して支援を行う体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間をとって説明を行い、理解、納得してもらえるよう努めている。	見学時に施設内を案内しながら、ハード面・医療面などで出来ること出来ないことを具体的に説明するようにしている。希望があれば重要事項説明書を事前に提供することもある。契約時には、契約書・重要事項説明書に沿って、不安や疑問が残らないよう丁寧な説明に努めている。契約内容を改定する時は、口頭で説明した後文書で同意を得る等、改定内容に応じて適切に対応している。契約終了の際は、契約書の条項に沿って、円滑な退居に向けた支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時にまめにコミュニケーションをとり、意見をもらいやすい雰囲気作りを心がけている。夏の家族会でも意見の収集を積極的に行っている。	面会時や電話で利用者の近況を報告し、2ヶ月に1回「すみれホーム通信」と個別の手紙を郵送して利用者の様子を伝え、家族が意見等を表わしやすいように取り組んでいる。毎年、夏祭りの後に家族会を開催し、話しやすい関係作りに努めている。6ヶ月毎の介護計画更新時にも、家族の意向や要望を聴いている。現在は、個人的な相談や要望であるため、職員間で共有し個別に対応している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションをまめに行い、意見を積極的に吸い上げるようにしている。	月に1回各フロアでフロア会議を行い、管理者は両フロア会議に出席し、職員の意見・提案の把握に努めている。会議では、利用者個々の状況の共有・課題の検討を行い、業務・行事等について話し合っている。業務担当・タイムスケジュール・行事企画・利用者のケア等、職員からの意見・提案をサービスや運営に反映させている。出席できなかった職員は議事録の回覧で周知を図っている。また、管理者は、介護事業本部長が参加する管理者会議で、職員の意見等を上位者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算、特定処遇改善加算を手当として毎月分配し、グループ内の研修を所定時間受ける事で給与のランクが上がるような人事制度を採用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体でキャリアに応じた研修や専門的な研修を行っており、参加することで職員の意識、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西宮市グループホーム連絡会に参加し、他施設の取り組みや現状を知ることで自施設のサービス向上のヒントにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を本人や家族からしっかり聞き取り、これまでの生活のリズムに近い生活ができるように支援している。それでも出てくる周辺症状には傾聴など本人のペースにあわせた対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から家族の不安要望を聞き取り、利用開始後も報告をこまめに行うことで不安を取り除けるように努めている。		

甲陽園すみれホーム

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の希望を元にサービス内容を検討して決めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態に合わせた役割を持ってもらい、それをスタッフが肯定することでお互いに尊重できる関係作りを行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にまめに報告を行い、理解してもらうことで利用者を支えるチームとして一緒に考え、協力していけるように努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の了解のもと、友人知人と面会や外出ができるよう支援を行っている。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「アセスメントシート」や「聞き取りシート」に記録して共有している。家族・友人の来訪時には居室など希望の場所でゆっくり過ごせるように配慮し、関係継続を支援している。デイサービスを利用していた時の友人との交流の継続も支援している。馴染みの場所への外出は家族にお願いし、外出しやすいよう支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの不自由さを補うような支援を行い、利用者同士の関係を作っていくように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もケアマネや施設担当者を通じて状況を把握するようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にしっかり聞き取りを行い、希望や意向を把握できるよう努めている。	入居時に利用者や家族から思いや意向を聴き、介護支援専門員が聞き取りシートに記録し共有している。入居後も日々の会話の中で把握に努め、思いや意向をカンファレンスで共有し、介護計画や支援に反映できるように取り組んでいる。意思の疎通が困難な利用者は、家族の意見や情報を参考にし、また、本人が答えやすいように聞き方を工夫したり、言動や表情からくみ取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接、入所時のアセスメントなどで聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで利用者情報の共有化を図り、毎月の会議で全体の再確認を行っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが毎月気づきシートに変化した点を記入して会議で話し合うことでケアプランに反映できるように努めている。	「アセスメントシート」「聞き取りシート」等をもとにニーズを把握して初回の介護計画を作成し、以降は定期的には6ヶ月ごとに見直しを行っている。介護記録に日々の実施状況を記録し、プラン番号の記載を活用して、計画と記録の連動性を明確にできるよう取り組んでいる。毎月のフロア会議の中で、利用者個々の状況の共有と課題解決のための検討を行っている。会議の前に、「気づきシート」を活用して職員の意見を集約し、「その人らしい生活」の実現に向けて効率的に話し合えるように工夫している。介護計画見直し時には、「モニタリング表」で評価を行い、フロア会議で検討した内容をカンファレンスシートに記録している。かかりつけ医など関係者からの意見などがあれば、カンファレンスシートに記録する仕組みがある	ADL等の変化についてもフロア会議で共有しているが、変化や現状を明確にするために、アセスメントシートの活用等、記録方法を工夫してはどうか。

甲陽園すみれホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが毎月気づきシートに変化した点を記入して会議で話し合うことでケアプランに反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで不穏な状態になった利用者をデイサービスで一時的に対応することで気分転換をしてもらうというような連携をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問による催し物や地元の学校の町探検などを通じて、地域との交流を行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により2週間に1回以上の診察を受け健康管理を行っている。24時間対応なので夜中でも電話対応、往診をしてくれる。	概ね週に1回、かかりつけ医の内科往診を受け、健康管理を行っている。任意で歯科の往診を受けられる体制もある。週に1回看護師の配置があり、往診時に医師に対応し、職員から医師への伝達事項や受診結果等を「個人服薬管理表」に記録している。他科を受診する際は、管理者が同行し、医師への報告・受診結果の把握を行っている。受診結果や情報は「申し送りノート」や「介護記録」に記載し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から状態の報告を行っており、かかりつけ医の往診時にも相談を行っている。		

甲陽園すみれホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病院や家族と連絡を取り、状況の把握をして関係を継続している。	入院時には管理者が同行し、直接状況を説明し、また、「介護サマリー」や病院から要請された書式で情報を提供している。入院中は、家族と連絡をとりながら、適宜面会に行き、医療連携室など関係者と情報交換し早期退院に向けて支援している。退院前に医療連携室など関係者や家族から情報を収集し、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の事業所での支援に活かしている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成している。看取りまでの対応が難しいことは入居時に説明している。	契約時に、重要事項説明書の「重度化した場合における対応について」をもとに、事業所として出来ること・出来ないことを具体的に説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医から説明があり、事業所からも環境面・医療面について説明し、家族の意向と利用者の状況に沿った支援に努めている。利用者の状況変化に応じて、家族との話し合いを重ね、経過については、介護記録や管理者の相談記録に記録している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の対応マニュアルを作成し、消防署から人形を借りて救命講習を実施している。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を実施している。	昨年度は、年2回、デイサービスと合同で、利用者も参加して、消防訓練を実施している。訓練は、マニュアルに沿った役割分担と手順で実施している。今年度も、昼・夜想定で2回実施する予定である。自然災害時に備えて、マニュアルの整備や訓練も計画している。管理者が管理責任者となり、水、米、カセットコンロ、懐中電灯、等を備蓄している。	訓練内容・評価等を記録した避難訓練実施記録を作成し、参加できなかった職員にも周知を図ることが望まれます。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、プライバシーの尊重についてマニュアルを作成している。	入職時のオリエンテーションで、法人のマニュアルに沿って「尊厳」「接遇」等について説明し、プライバシー確保・自尊心を損ねない声かけ等の周知を図っている。日々の業務やフロア会議の中で、丁寧語での会話を基本とすることを意識づけ、気になる場面があれば管理者が個別に注意を促している。「すみれホーム通信」や館内掲示での利用者の写真使用については、重要事項説明時に同意を得ている。個人記録類は鍵のかかる書庫や各ユニット詰所に保管し、不在の際は鍵をかけるようにしている。	プライバシーや接遇についても、年間計画に入れ、継続的に研修を実施することが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族への聞き取りを行い、入居者自身の背景の理解に努めることで希望を汲み取りやすくするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はだいたい決まっているが、参加不参加については本人の意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装を決められる人には自分で選んでもらい、決められない人にもなるべく相談している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加してもらえる部分には参加してもらえるように誘導している。買い物に行く際も好きなものを買って食生活を楽しんでもらえるように努めている。	献立と食材が届けられ、各ユニットで調理を行い手作りの食事を提供している。献立には、季節感や行事食が採り入れられている。食事形態や調理のアレンジは各ユニットで行っている。利用者の好みや得意に応じて、下準備・味見・お盆拭き等に参加できるように支援している。敬老の日には家族を招待して食事会を行っている。買い物で好みの食べ物を選んで購入したり、手作りおやつの日を設けたり、外食・喫茶に出かける等、食生活を楽しめる機会作りに努めている。	

甲陽園すみれホーム

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録をとっている。水分摂取の少ない人には記録をとり、飲みやすい形の水分提供を行って、しっかり摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導、介助を行っている。歯科の訪問もあり、口腔衛生には配慮している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、適切なタイミングに誘導、パッドチェックが行えるようにしている。自尊心を傷つけないような見守り、介助を行えるよう声かけに配慮している。	「排泄チェック表」に記録し、排泄状況・排泄パターンを把握して、個々のタイミングを合わせた声かけ・誘導・排泄支援を行っている。昼間はトイレでの排泄を基本とし、夜間は安眠にも配慮し個々に応じた排泄支援を行っている。カンファレンスで、利用者個々の状況や課題を共有し、現状に適した介助方法・排泄用品等を検討している。ドアの開閉、声かけや見守りの際の配慮等、プライバシーへの配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行を中心とした運動と水分補給を心がけている。それでも出なければ緩下剤の利用を主治医と相談する。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を入居者の予定に合わせていけるよう努めている。	週2回、午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の体調・予定・希望等に合わせて柔軟に対応している。状況に応じて、シャワー浴・2人介助の入浴を行ったり、声かけの方法やタイミングを工夫する等、安全に気持ちよく入浴できるように個別の配慮を行っている。アコーディオンカーテン・内側カーテンを二重に閉め、プライバシーに配慮している。ゆず湯の機会を設けたり、個々のペースで会話しながら入浴する等、入浴を楽しめる支援に努めている。	

甲陽園すみれホーム

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその人に合わせた運動、レクリエーション、場合によっては臥床休養など、状態に合わせた活動を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は情報の申し送り、受診記録のチェックをすることでスタッフへの周知を図っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物等のレクリエーションや洗濯たたみ、料理の盛り付けといった家事をやってもらふことでそれぞれの気持ちに寄り添った支援を行えるよう配慮している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、気候などを配慮した上で、散歩、買い物を行っている。外食など施設外に連れ出す機会を積極的に作ってくれている家族もいる。	気候や利用者の体調に配慮しながら、近隣への散歩・スーパーへの買い物等に日常的に出かけられるよう取り組んでいる。春など気候の良い時期は日課として戸外へ出られるよう支援に努めている。ドライブを兼ねて、桜・梅林・コスモス・紅葉等、季節感のある外出の機会を設けている。また、外食や喫茶に出かける機会も設けている。家族と外出しやすいように、事業所としても支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者に金銭の所持をしてもらうことは可能。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から了解を得たうえで電話をかけたいときには対応している。		

甲陽園すみれホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きいものを使用して開放感が出るようにしている。共用部にソファを設置してゆったり過ごすことができるようにしている	リビングの大きな窓から採光がよく、明るく清潔感がある。テーブル席のスペースと、ソファ・テレビが置かれたスペースがあり、利用者が思い思うにゆっくり過ごせる環境である。リビングや廊下に、季節の花や行事の写真・書道の作品等が掲示され、季節感を採り入れている。キッチンから手作り調理の音や匂いを感じたり、洗濯ものを干したりたたんだり家事作業に参加する等、生活感も感じられる。清掃専任職員の配置や大きな加湿器を設置する等、環境整備にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい人には自室やリビングの隣の部屋を利用してカーテンで区切ったりしている。ほかの人と一緒に過ごしたい人はソファやテーブル席を利用してもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具などを持ち込んでこれまでの生活とのギャップが少なくなるように努めている。	各居室に、洗面台・引き出しタンス・カーテン・エアコンが設置されている。ベッド・テーブルセット・鏡台など使い慣れた家具や、仏壇・家族の写真・ぬいぐるみ・自作の作品など大切な物の持ち込みを勧め、その人らしく居心地の良く過ごせる環境づくりを支援している。居室担当者を決め、物品の管理・購入、季節に応じた衣類や布団の交換等を家族と連携して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーなので段差も少なく移動しやすい。トイレ居室に表示をしてわかりやすくしている。		